

なく、債券、REIT（リート）、通貨、コモディティ（商品）の指数もあり、その中に金がある。似ている商品として投資信託があるが、ETFは、その投資信託が金融商品取引所に上場しているようなイメージの金融商品。投資信託は1日1回算出される基準価額で1日1回しか取引できないところ、ETFは、投資家の判断で金融商品取引所の取引時間内に、株式と同様に相場の動きを見ながら売り買いができる。

豆の町（ビーンタウン）から

こんにちは（第2回）

会員家族 住井 円香

■世相が色濃く反映される学長たち

——大学は誰のモノ——

昨年10月のイスラム教原理主義の軍事組織・ハマスによるイスラエルへの攻撃後、アメリカでは宗教間の緊張が続き、多くの大学が従来からの言論の自由を尊重する伝統と差別的な言動への反対の両立の難しさに苦しんでいます。昨年12月には、米国議会下院で公聴会が開かれハーバ

ード大学、マサチューセッツ工科大学、ペンシルベニア大学の学長が証人として立つ事態になり、その際の発言が波紋を呼ぶことになりました。

日本でも報道されているのでご存知の方も多いと思いますが、学長らは、下院議員から「(学内で)ユダヤ人に対する大量虐殺、『ジェノサイド』を、呼びかける発言がされた場合、大学の規則やルール違反に該当するか」という質問を受け、差別には反対する姿勢を強調しつつも、「状況による」との回答を繰り返しました。明確にユダヤ人学生を守るとも、あるいは言論の自由を貫くとも明示できなかったこれらの発言姿勢は反発を招くこととなり、まずペンシルベニア大学の学長が辞任することに。それに続くように1月に入って、ハーバード大学の学長も自身の論文盗用疑惑も相まって責任を取るよう

に辞任を表明しました。

アメリカの大学で過ごしているといろんな場面で実感できることなのですが、多くの大学が卒業生などからの寄付金に資金面で依存しています。こうした寄付は、卒業生が母校に誇りを持ち、感謝を込めて贈るものです。大学の顔である学長の姿勢

に抗議し、ユダヤ系の卒業生による寄付が取りやめられるなど、寄付は大学への信頼の現れであって、無条件に行っているわけではないということを感じさせられました。今回の学長たちの辞任劇の背景には寄付者からの根強い反発もあったと言われ、改めてアメリカの大学における卒業生の影響力の大きさを目の当たりにしたように思いました。

実は私が通うポストン大学では、来年度から新しい学長が着任することになっています。2005年から昨年7月末まで学長を務めたロバート・ブラウン前学長の退任以降、学内から選ばれた臨時の学長が代わりの職務を遂行してきました。そして新学長の選考は、教職員や卒業生、学生が、4百人以上の候補者の中から、およそ1年かけて選ぶという大がかりなものだったようです。

「ダディ・ブラウン」と呼ばれ、良くも悪くも学生からいじられることが多かった前学長とは対照的に、新学長に対しては歓迎の声が強く、学生たちもお祝いムードでした。

新学長のメリッサ・ギリアム氏はポストン大学にとって初めての黒人学長かつ初めての女性学長です。ギ

リアム氏が学生思いで知られることやこれまでの実績という選考に当然ながら重要になった要素に加え、かつては人種や性別を理由に選ばれることがなかったであろう人物が学長に就任する、という事実を学生たちは誇らしく、好意的に捉えているようです。

ポストン大学だけでなく、アメリカの有名大学はこうした新しい時代を感じられる学長が次々誕生していることが話題でもあり、前述の騒動が起こったハーバード大学の学長も、ギリアム氏と同じく黒人女性でした。ハーバード大学は、女性学長は過去に誕生していたものの、黒人が学長に就任するのは初めてだったのですが、昨年7月の就任からわずか半年あまりでの辞任は、同大学史上最短の在任期間となつてしまいました。

前回書いた話ともつながりますが、特定の人種や性別を強調することは、その人はどんな人であるのかという中身を見るのではなく、属性でしか見ていないことにもなつてしまふよう、こうした切り口を取るこ

との難しさも感じます。一方で、残念ながらハーバード大学の場合は辞任という結果になってしまいました

が、自分の大学だけではなく、他の大学でも今まで選ばれてこなかったような属性の持ち主の中からもリーダーを選ぶ試みが強まっているという風潮は、やはり興味深く、注視していきたいことのように思いました。

## ■不味い？ 美味しい？ 大学の食事事情

学生の間で意見が大きく分かれることの一つ。それが、大学の食堂の味についてです。寮生活を送るアメリカの大学生にとって切っても切り離せないところなのですが、不思議なことに「美味しい」と答える学生と「あまり美味しくない」と話す学生で評価は二分されていて、その中間の意見が少ない印象です。

サラダやピザはバイキング形式ですが、サンドウィッチやハンバーガーなど、スタツフに頼んで配膳してもらうものも多いです。ラーメンのような麺でできた食べ物、中に入れる材料を自分で選んで注文してから料理人に作ってもらうため、でき上がり時間がかかりますが、人氣があり、いつも列ができています。

白いご飯やみそ汁を食べることができる食堂もありますが、個人は

あまり美味しいとは言い難く、ワツフルメーカーが備え付けてあるところもあるので、生地を流して自作したワツフルに、ジャムなど好きなものを選んでトッピングして楽しんだりしています。

また、大学の全ての食堂では、毎年9月にロブスター・ナイトと呼ばれるイベントが行われ、大学の風物詩の一つとなっています。着ぐるみのロブスターも登場し、スタートしたばかりの学生生活を盛り上げようという雰囲気になっています。他にも、12月にはフィンランドの独立記念日を祝つて、フィンランドをイメージした料理が多く出されたり、食べた料理のリクエストも受け付けています。

普段は同じメニューが続き、味に不満を持つ学生も少なくないため、食堂でイベントを催すことで、学生の日々を単調なものにしないための工夫が感じられます。

とはいえ、食事事情はやはり日本が一番。日本人学生が集まると、寮のご飯が理由で太ってしまった、痩せてしまった、という会話が尽きません。